

米中貿易摩擦の木材貿易への影響

—米中両国と世界の動き—

主事研究員 安藤範親

〔要 旨〕

巨大な消費市場をもつ米国と中国は、木材貿易の主要プレイヤーである。2018年半ばから始まった米中貿易摩擦は米中間にとどまらず世界的な景気減速や貿易停滞の要因となっている。19年には米国と中国の貿易額の伸び率がすべての主要輸出入先で低下した。そのため、米中間はもちろんのことその他の国・地域の木材需給にまで影響を及ぼしている。

世界の木材貿易の変化を統計数値から確認したところ、米中の木材貿易額の伸び率は19年に大幅に低下しマイナスに転じた。米中両国ともに追加関税で生じる価格上昇の影響で貿易額が縮小したとみられる。間接的な影響として、中国製品の価格競争力低下で中国から木材産業の成長が著しいベトナムへと生産移管が進んでいる。また、中国から米国向けの輸出価格が低下した結果、その材料を中国に供給する国の輸出価格が低下しており、悪影響が第三国にまで及んでいる。

目 次

はじめに

1 貿易全体への影響

- (1) 追加関税措置の状況
- (2) 追加関税により貿易は停滞

2 木材貿易の変化

- (1) 米中の木材生産量と貿易量
- (2) 米国の木材貿易の動向
- (3) 中国の木材貿易の動向
- (4) 小括
—減少した米中の木材貿易額—
- (5) 住宅市場の減速が木材貿易に影響

3 貿易摩擦が他国に及ぼす影響

- (1) 事例1
—ベトナムの米国向け輸出が増加—
- (2) 事例2
—日本の中国向け丸太輸出が減速—

おわりに

- (1) 米中の木材貿易額は縮小
- (2) 生産地の移管や価格の低下を誘発
- (3) 新型コロナウイルスが更なる打撃に

はじめに

世界の木材需給において、米国と中国の消費と貿易が占める割合は大きい。国際連合食糧農業機関（FAO）によると、2018年^(注1)の世界の木材消費量は、丸太が20億3千3百万m³、製材が4億8千6百万m³、合板が4億6百万m³であり、このうち米中両国を合わせた割合は、丸太が29%、製材が47%、合板が59%^(注2)を占める。また、世界の木材輸入量（輸出量）は、丸太が1億4千1百万m³（1億3千5百万m³）、製材が1億5千1百万m³（1億5千8百万m³）、合板が9千万m³（9千2百万m³）であった。このうち米中両国を合わせた割合は、丸太が輸入で44%（輸出で10%）、製材が輸入で42%（輸出で5%）、合板が輸入で20%（輸出で18%）を占めている。

多くの木材を消費し貿易する両国の動向は、世界の木材需給を左右する。18年半ばから始まった米中貿易摩擦は、米中間はもちろんのことその他の国・地域の木材需給にまで影響を及ぼしている。本稿では、世界の木材需給のうち貿易について、米中貿易摩擦がどのような影響を与えたのかを統計数値から確認する。

本稿の構成は次のとおりである。次節で米中貿易摩擦による追加関税措置の状況と貿易全体への影響を確認する。第2節では、米中両国の木材貿易の動向から追加関税賦課の影響を把握する。第3節では、ベトナムと日本を事例に米中貿易摩擦が他国に及

ぼす影響を確認し、最後に今後の見通しについて考察を行う。

(注1) 木材消費量は、生産量に輸入量を加え、輸出量を除いた値。また、丸太は燃料用以外の製材、合板、パルプ、チップなどに使われる産業用丸太を指す。以下同じ。

(注2) 木材の多くは住宅に利用されているが、それぞれの国の住宅事情によってその利用状況は異なる。米国では、新設着工戸数に占める一戸建ての割合は7割と高く、また一戸建てに占める木造住宅の割合は9割強を占める。そのため同国内で普及している住宅の工法である枠組壁工法に用いる製材の利用が多い。一方、中国では、木造住宅は少なく鉄筋コンクリート造のマンションが多くを占める。そのため、建築時に用いられる建築資材（コンクリート型枠等）のほか、住宅取得時に合わせて購入される内装用材（フローリング、壁、下地等）としての利用が多い。これらの材には合板などが主に用いられる。したがって、米国は中国よりも木造用の製材の利用割合が高く、中国は米国よりも鉄筋コンクリート造用の合板の利用割合が高い。

1 貿易全体への影響

(1) 追加関税措置の状況

米中貿易摩擦の激化を背景に、両国間で追加関税の応酬が続いている。米国のトランプ政権は、中国との貿易不均衡問題等を理由に、18年7月に中国から輸入される818品目に対して第1弾の制裁関税を発動した（第1表）。これに対して中国も同規模の報復関税を発動し、両国は第2弾（18年8月）、第3弾（18年9月）、第4弾（19年9月）と4回にわたり関税引き上げの応酬を続けてい^(注3)る。その後、関係改善に向けた動きもあり^(注4)、20年2月に米中両国は第4弾で引き上げられた関税率を引き下げている。

木材に関連する品目（古紙・パルプを除く）^(注5)としては、米中両国ともに第3弾より追加

第1表 米中の追加関税措置状況

米国			中国			
課税賦課開始日	内容	主な対象品目	課税賦課開始日	内容	主な対象品目	
第1弾	18年7月6日	340億ドル相当 818品目に25% 追加関税	第1弾	18年7月6日	340億ドル相当 545品目に25% 追加関税	農産物、水産品、自動車 (普通車)等
第2弾	18年8月23日	160億ドル相当 279品目に25% 追加関税	第2弾	18年8月23日	160億ドル相当 333品目に25% 追加関税	化学工業製品、医療設 備、古紙、自動車(バス) 等
第3弾	18年9月24日	2,000億ドル相当 5,745品目に10% 追加関税	第3弾	18年9月24日	600億ドル相当 5,207品目 (うち3,571品目 10%、1,636品目 5%)に追加関税	液化天然ガス、食料品、 電気製品、自動車部品、 木材・パルプ、家具等
	19年5月10日	25%に追加関税 引上げ		19年6月1日	2,493品目25%、 1,078品目20%、 974品目10%に 追加関税引上げ	
第4弾	19年9月1日	1,100億ドル相当 3,243品目に15% 追加関税	第4弾	19年9月1日	750億ドル相当 (注)、 うち916品目に 10%、801品目に 5%追加関税	大豆、原油等
	20年2月14日	7.5%に追加関税 引下げ		20年2月14日	10%⇒5%に、 5%⇒2.5%に追 加関税引下げ	
対中輸入額合計		3,600億ドル (17年輸入額5,200億ドルの約7割)	対米輸入額合計		1,850億ドル(重複あり) (17年輸入額1,500億ドルのほぼすべて)	

資料 米国通商代表部、中国国務院関税税則委員会、日本貿易振興機構のホームページを参考に作成

(注) 中国の第4弾の金額は、追加関税未実施分(3,361品目)を含めた金額。金額の内訳は未公表で既存追加品目と重複あり。

関税賦課の対象品目としており、18年9月に10%、19年5月(中国では6月)に25%の追加関税が賦課されている。

(注3) 米中両国は追加関税対象品目について企業等からの申請に基づき、適用除外を認める制度を設けている。審査基準は、代替品の調達先をみつけることが困難な理由や申請者に重大な経済的損害をもたらしていることを明らかにすることなどが挙げられている。両国は、20年2月末までに、第1弾の追加関税対象品目に対し、18年12月以降に計10回、第2弾に対し19年7月以降に計5回、第3弾に対し19年8月以降に計9回にわたって適用除外対象品目を発表している。適用除外の効力は、追加関税賦課が開始された日に遡及して適用され、既に支払った関税は還付される。また、適用除外が認められた品目は申請者以外が輸入しても追加関税が免除される。

なお、第3弾対象品目である木材に関連する品目としては、19年10月に装飾品箱(番号9403.50.9080)、同年11月にオーク材のフロア等

(4409.29.4100) やオーク材等の広葉樹単板使用合板(4412.99.5105)、0.635mm未満の繊維板シート(4411.93.9090)、同年12月にエントリーテーブル(9403.60.8081)、チーク材以外のダイニングチェア(9401.61.4011)が適用除外対象品目として発表されている。

(注4) 20年1月に米中両国は、包括的な貿易協定の第1段階と双方が位置付ける合意文書に署名した。知的財産の保護や金融市場の開放など7分野において米中両国が取り組むことが定められている。例えば海賊版製品の取締りや証券・保険業界等の外資出資規制の撤廃などである。ただし、第2段階の交渉妥結まで追加関税の撤廃は据え置かれた。その後、新型コロナウイルスや香港を巡って米中間の対立が激化したため、早期関係改善の機運は遠のいている。

(注5) 貿易統計品目分類のうち木材・木製品(44類)と家具(94類)が主に該当。

(2) 追加関税により貿易は停滞

国際通貨基金(IMF)の世界経済見通し

によると、19年の世界の実質経済成長率は、18年の3.6%から2.9%へと減速した。IMFは、米中貿易摩擦などの輸入品に高い関税を課す保護主義的な貿易政策による先行きの不透明感が世界経済に波及し、世界的な貿易量の縮小や企業マインドの悪化による設備投資の減速をもたらしたと分析している。つまり、米中貿易摩擦の影響は両国間にとどまらず、世界各国の貿易の停滞につながっているというのである。この点について、米中両国の主要貿易先との輸出入実績を確認しておこう。

a 米国の輸出入動向

米中貿易摩擦の激化を背景に、米国の輸出入額の伸び率は19年にマイナスに転じたほか、すべての主要輸出入先の伸び率が低下した。

まず、19年の輸出合計金額の伸び率は、△1.2%と18年の7.7%から大幅に低下し、マイナスに転じた(第2表)。国・地域別にみると、^(注6) 主要な輸出先であるEU、カナダ、メキシコで19年に伸び率が低下した。EUの伸

び率はプラスを維持したものの米国経済と結びつきの強い隣国のカナダやメキシコはマイナスに転じた。これは、米中貿易摩擦^(注7)の間接的な影響に加え、NAFTA(北米自由貿易協定)の見直しといった通商関係の不透明さから設備投資が減速したことなどが影響している。^(注8) 対中国では、追加関税措置の始まった18年に△7.4%、19年に△11.3%と2年連続で伸びがマイナスとなった。輸出額に占める中国向けの割合は6%と大きくはないものの、寄与度は19年に△0.8ポイントと輸出合計金額を押し下げている。

次に、19年の輸入合計金額の伸び率は、△1.7%と18年の8.6%から大幅に低下し、マイナスに転じた(第2表)。国・地域別にみると、^(注9) 主要な輸入先であるEU、中国、メキシコ、カナダのすべてで19年に伸び率が低下した。EU、メキシコ、カナダの伸び率はプラスを維持したものの中国は19年に△16.2%と大幅に低下し、寄与度は△3.4ポイントと^(注10) 輸入合計金額を押し下げている。

(注6) 品目分類別にみると、輸出額全体としてはショベルローダー等の重機のほかパソコンの記

第2表 米国の主要国・地域別輸出入(通関ベース)

(単位 百万ドル、%、ポイント)

		18年				19			
		金額	構成比	伸び率	寄与度	金額	構成比	伸び率	寄与度
輸出	中国	120,148	7	△7.4	△0.6	106,627	6	△11.3	△0.8
	カナダ	299,769	18	6.1	1.1	292,382	18	△2.5	△0.4
	メキシコ	265,443	16	9.0	1.4	256,374	16	△3.4	△0.5
	EU	318,376	19	12.4	2.3	337,020	20	5.9	1.1
	合計(その他を含む)	1,665,992	100	7.7	7.7	1,645,174	100	△1.2	△1.2
輸入	中国	539,676	21	6.8	1.5	452,243	18	△16.2	△3.4
	カナダ	318,824	13	6.6	0.8	319,736	13	0.3	0.0
	メキシコ	346,101	14	10.6	1.4	358,126	14	3.5	0.5
	EU	487,037	19	12.0	2.2	514,886	21	5.7	1.1
	合計(その他を含む)	2,540,806	100	8.6	8.6	2,498,402	100	△1.7	△1.7

資料 U.S. Census Bureau

憶装置、携帯の部分品、貴金属（輸出統計品目分類番号84、85、71類）などが減少している。また、追加関税措置以外の大きな減少要因として、ボーイング社の墜落事故に伴う出荷停止の影響で航空機（88類）が減少している。うち中国向けは、主にパソコンの記憶装置、自動車、石油（84、87、27類）が減少している。なお、中国向けが輸出額の過半を占めていた大豆（12類）は、18年に△71.5%と激減したものの、19年9月に中国が追加関税を免除し回復傾向にある。

(注7) カナダのモントリオール銀行のサル・グアティエリ氏は、米中貿易摩擦がカナダのGDPを0.5%低下させると試算している（Guatieri（2019））。

(注8) メキシコへの輸出額減少は、同国内の政策金利の引上げにより自動車等の耐久消費財の消費が伸び悩んだことなども影響している。

(注9) 品目分類別にみると、パソコンや携帯、家具、プラスチック（84、85、94、39類）などが主に減少している。その他、追加関税措置の間接的な影響として、米中間の関係悪化に加え中国国内の景気低迷で米国への中国人観光客が減少した結果、米国内のラグジュアリー製品の売上げが低迷し、貴金属（71類）の輸入額が減少している。さらに、追加関税措置以外の要因として、近年の採掘技術の発展や原油市況の回復などにより米国内の石油生産が拡大したため、石油等（27類）の輸入が減少している。

(注10) 米国の輸入額に占める中国の割合は2000年の8%から17年に22%へと拡大し、近年は最大の輸入相手国となっている。追加関税措置によって同国の割合は19年に18%へと縮小したものの、その地位は依然として変わらない。日本と米国の貿易摩擦が問題となった80年代は、米国の輸入額に占める日本の割合は22%（86年）で

あった。過去の日本と同様に、中国の存在感の高まりが貿易摩擦激化の背景にある。

b 中国の輸出入動向

米中貿易摩擦の激化は、中国の輸出入額にも影響を及ぼしており、19年にすべての主要輸出入先の伸び率が低下した。

まず、19年の輸出合計金額の伸び率は、0.5%と18年の9.9%から大きく鈍化した（第3表）。国・地域別にみると、主要な輸出先である米国、EU、ASEAN、香港のすべてで19年に伸び率が低下した。特に米国は、伸び率が△12.5%と大幅に低下し、それに伴い寄与度が△2.4ポイントとなるなど輸出合計金額を押し下げている。中国が推進する巨大経済圏構想「一帯一路」の沿線地域であるEUやASEAN向けは、伸び率がプラスを維持した。米国以外の市場開拓が進捗し始めていると考えられるほか、米国への輸出を代替する先としてASEANへの生産移管が進み、移管先への原材料や部品の輸出が増えていることも背景にあるとみられる。

一方、19年の輸入合計金額の伸び率は、

第3表 中国の主要国・地域別輸出入(通関ベース)

(単位 百万ドル、%、ポイント)

		18年				19			
		金額	構成比	伸び率	寄与度	金額	構成比	伸び率	寄与度
輸出	米国	478,423	19	11.3	2.2	418,674	17	△12.5	△2.4
	香港	302,068	12	8.1	1.0	278,948	11	△7.7	△0.9
	EU	408,632	16	9.8	1.6	428,700	17	4.9	0.8
	ASEAN	319,244	13	14.4	1.8	359,425	14	12.6	1.6
	合計(その他を含む)	2,487,401	100	9.9	9.9	2,499,029	100	0.5	0.5
輸入	米国	155,096	7	0.7	0.1	122,714	6	△20.9	△1.5
	韓国	204,639	10	15.3	1.5	173,575	8	△15.2	△1.5
	EU	273,533	13	11.7	1.6	276,596	13	1.1	0.1
	ASEAN	268,628	13	14.0	1.8	282,042	14	5.0	0.6
	合計(その他を含む)	2,135,637	100	16.0	16.0	2,077,097	100	△2.7	△2.7

資料 中国海関総署

△2.7%と18年の16.0%から大幅に低下し、マイナスに転じた(第3表)。国・地域別に(注13)みると、特に米国と韓国で伸び率が低下している。米国は19年の構成比が6%と高くはないものの、追加関税措置の影響で輸入額の伸び率が△20.9%と大幅に低下した結果、寄与度が△1.5ポイントと輸入全体の減速に影響している。

また、韓国からの輸入額減少は、米中貿易摩擦の間接的な影響である。中国では、第1弾の課税対象となったパソコンや携帯などの対米最終財の輸出額減少によって国内製造業の停滞感が強まり、その生産に必要となる韓国からの部品(中間財)の輸入額が減少している。その他、EUやASEANからの輸入額の伸び率はプラスを維持したものの、18年からは大幅に減速している。

このように、米中間貿易に限らず、米中ともに主要先国・地域との貿易額の伸び率が軒並み鈍化している。

(注11) 品目分類別にみると、パソコンや自動車、衣類(84、87、62類)などが減少している。一方、携帯、家具、プラスチック(85、94、39類)は伸び率が鈍化したもののプラスを維持している。これらは米国の輸入が大幅に減少した品目であるが、他国への輸出でその減少分が補われている。

(注12) 香港向けの輸出額減少は、中国本土から香港経由で米国へ輸出される製品の輸出額減少に加え、域内のデモ長期化による社会の混乱など

により景気減速が強まったことなどが背景にある。

(注13) 品目分類別にみると、プロセッサや半導体(84、85類)、自動車部品(87類)などが減少している。また、国内景気の減速に伴って貴金属(71類)が減少している。

2 木材貿易の変化

追加関税措置による米国と中国の貿易額の減少は、両国と取引する世界の国々に対して影響を与えている。世界の木材貿易においても米中の追加関税措置によって同様の影響が出たと考えられる。そこで、追加関税措置が米中の木材貿易にどのような影響を与えたのか、貿易額に関する統計数値から確認する。

(1) 米中の木材生産量と貿易量

米国と中国の木材生産量と貿易量が世界に占める割合をみると(第4表)、米国の生産量が世界に占める割合は丸太が18%、製材が17%と高い。国内で丸太を生産し、主に製材に加工している。貿易量が世界に占める割合は、輸入は製材、合板がそれぞれ18%、木製家具が33%と高い。それに対して、輸出はあまり割合の高い品目はない。

中国の生産量が世界に占める割合は、丸

第4表 2018年の世界に占める米国と中国の木材生産量と貿易量の割合

(単位 %)

	米国				中国				合計			
	丸太	製材	合板	木製家具	丸太	製材	合板	木製家具	丸太	製材	合板	木製家具
生産量	18	17	9	…	9	18	50	…	27	35	59	…
輸出量	9	5	2	2	0	0	16	28	10	5	18	30
輸入量	1	18	18	33	43	25	2	2	43	42	20	35

資料 FAO「FAOSTAT」、International Trade Centre(20年3月現在有効なもの)

太が9%と米国に比べて低いものの、製材が18%、合板が50%と高い。貿易量が世界に占める割合は、輸入は丸太が43%、製材が25%と高い。それに対して輸出は合板が16%、木製家具が28%と高い。全体として原材料を輸入して加工品を輸出する加工貿易が進んでいるとみることができる。

以上より、米国は輸入が製材、合板、木製家具で、中国は輸入が丸太、製材で、輸出が合板、木製家具で世界シェアが高い。追加関税措置は特にこれらへの影響が大きいと想定される。

(2) 米国の木材貿易の動向

a 中国向けを中心に丸太と製材の輸出額が減少

19年の米国の木材輸出金額は、82億8千万ドルと世界第5位であった（世界の木材輸出金額1,360億ドルの6%）。その伸び率は、△16.1%と18年の1.0%から大幅に低下し、

マイナスに転じた（第5表）。国・地域別にみると、主要な輸出先である中国、カナダ、EU、メキシコのすべてで19年に伸び率が低下した。なお、中国は18年に△10.5%、19年には△45.1%と貿易摩擦が激化するにつれて伸び率のマイナス幅が拡大している。

品目分類別にみると、主に丸太や製材が輸出額低下に寄与している。これらの品目を国・地域別にみると、特に丸太（第1図）と製材（第2図）で中国向けが大きく落ち込んでいる。対中丸太（針葉樹と広葉樹の比率は6：4）のCIF価格^(注14)は、18年9月に274ドル/トンに達して以降下落傾向にあるが、追加関税を上乗せした価格が高止まりしたことなどが輸出額の落ち込みに影響したと考えられる（第3図）。また、製材（針葉樹と広葉樹の比率は6：4）も丸太と同様に、追加関税を上乗せした価格が高止まりしたことなどが影響したと考えられる（第4図）。

中国に輸出された丸太や製材は、その一

第5表 米国の木材輸出増減額(地域別・主要品目別)

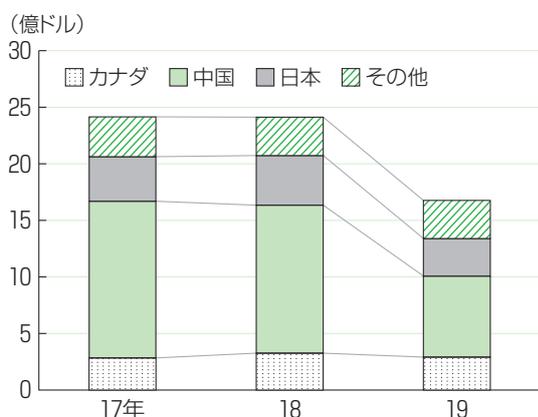
(単位 百万ドル、%、ポイント)

	18年				19				
	金額	構成比	伸び率	寄与度	金額	構成比	伸び率	寄与度	
木材輸出合計	9,868	100	1.0	1.0	8,280	100	△16.1	△16.1	
地域別 うち国・	中国	2,863	29	△10.5	△3.4	1,572	19	△45.1	△13.1
	カナダ	2,187	22	2.9	0.6	2,081	25	△4.8	△1.1
	EU	1,504	15	12.1	1.7	1,577	19	4.9	0.7
	メキシコ	796	8	3.0	0.2	803	10	0.9	0.1
うち統計品目分類別	製材	3,651	37	△3.9	△1.5	2,804	34	△23.2	△8.6
	丸太	2,411	24	△0.2	△0.0	1,676	20	△30.5	△7.4
	燃料	1,158	12	21.0	2.1	1,205	15	4.1	0.5
	建具	405	4	5.2	0.2	400	5	△1.2	△0.1
	単板	338	3	8.7	0.3	302	4	△10.7	△0.4
	床・内壁用材	294	3	4.6	0.1	290	4	△1.4	△0.0
	合板	348	4	△15.7	△0.7	259	3	△25.6	△0.9
	たる、おけ	231	2	8.5	0.2	234	3	1.3	0.0
	繊維板(MDF等)	221	2	5.2	0.1	220	3	△0.5	△0.0
	その他木製品	172	2	6.8	0.1	200	2	16.3	0.3

資料 第2表に同じ

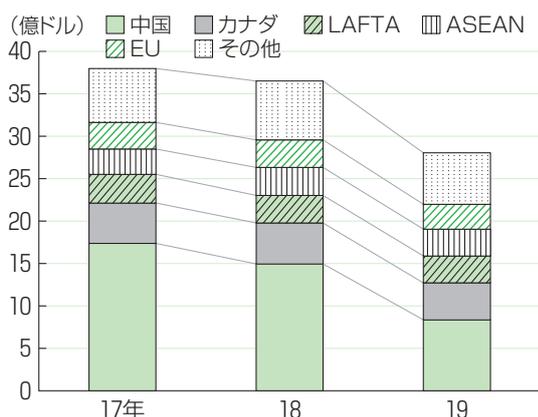
(注) 統計品目分類番号は、製材4407、丸太4403、燃料4401、建具4418、単板4408、床・内壁用材4409、合板4412、たる、おけ4416、繊維板(MDF等)4411、その他木製品4421。以下同じ。

第1図 米国の丸太輸出額の推移



資料 第2表に同じ

第2図 米国の製材輸出額の推移



資料 第2表に同じ

部が家具などの最終製品となって米国へ戻る。米中両国が追加関税を課した結果、材料には中国で、最終製品には米国で追加関税がかかるため、米国における最終製品の輸入額に影響を及ぼしており、それが米国から中国への材料の輸出額にも大きな影響を与えている。

その他、燃料は英国や日本などの木質バイオマス発電向けとして増加傾向にある。

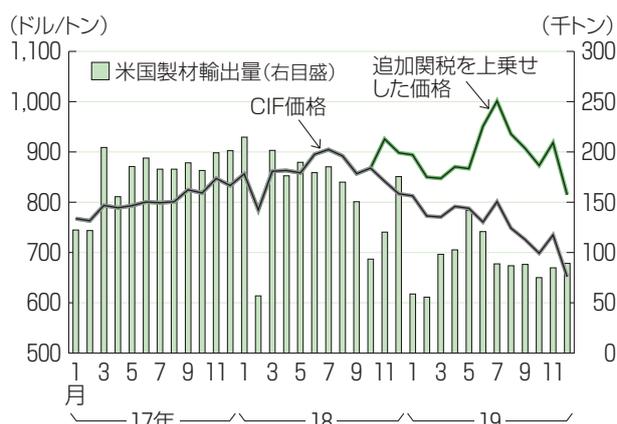
(注14) CIF価格は、輸出国で船舶に貨物を積み込むまでの代金であるFOB価格に対し、輸入国までの運賃・保険料を加えた港着の価格である。

第3図 米国の中国向け丸太輸出量と価格の推移



資料 International Trade Centre
(注) 貿易統計では、輸出でFOB価格を輸入でCIF価格を使うが、追加関税額を適切に上乘せするためにCIF価格を用いて表示した。

第4図 米国の中国向け製材輸出量と価格の推移



資料、(注)とも第3図に同じ

b 中国などからの合板輸入額が減少

19年の米国の木材輸入金額は、181億1千8百万ドルと世界第2位であった(世界の木材輸入金額の1,410億ドルの13%)。その伸び率は、△15.2%と18年の7.0%から大幅に低下し、マイナスに転じた(第6表)。国・地域別にみると、主要な輸入先であるカナダ、中国、EU、ASEANのすべてで19年に伸び率が低下した。特に構成比の高い隣国のカナダが△18.1%となったほか、中国が△30.0%と大幅に低下した。

第6表 米国の木材輸入増減額(地域別・主要品目別)

(単位 百万ドル、%、ポイント)

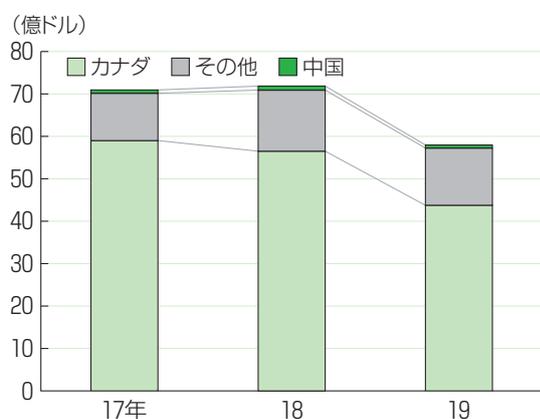
	18年				19				
	金額	構成比	伸び率	寄与度	金額	構成比	伸び率	寄与度	
木材輸入合計	21,361	100	7.0	7.0	18,118	100	△15.2	△15.2	
地域別 うち国・地域別	中国	4,116	19	4.5	0.9	2,882	16	△30.0	△5.8
	カナダ	10,421	49	0.4	0.2	8,533	47	△18.1	△8.8
	EU	1,849	9	25.0	1.9	1,779	10	△3.8	△0.3
	ASEAN	1,351	6	54.0	2.4	1,372	8	1.6	0.1
うち統計品目分類別	製材	7,185	34	1.3	0.5	5,796	32	△19.3	△6.5
	合板	3,335	16	21.7	3.0	2,508	14	△24.8	△3.9
	建具	2,287	11	3.6	0.4	2,202	12	△3.7	△0.4
	その他木製品	1,600	7	14.0	1.0	1,441	8	△9.9	△0.7
	パーティクルボード	1,940	9	11.0	1.0	1,410	8	△27.3	△2.5
	床・内壁用材	1,284	6	2.2	0.1	1,245	7	△3.0	△0.2
	繊維板(MDF等)	1,190	6	2.7	0.2	1,056	6	△11.3	△0.6
	象嵌等	715	3	6.9	0.2	672	4	△6.0	△0.2
	単板	425	2	12.7	0.2	348	2	△18.1	△0.4
	台所・食卓用器具材	280	1	11.1	0.1	302	2	7.9	0.1

資料 第2表に同じ
 (注) 統計品目分類番号は、パーティクルボード4410、象嵌等4420、台所・食卓用器具材4419。以下同じ。

品目分類別にみると、台所・食卓用器具材以外の品目のすべての伸び率がマイナスとなっている。なかでも製材、合板、パーティクルボードが輸入額の減少に寄与している。これらの品目を国・地域別にみると、19年でカナダの構成比が製材で8割(第5図)、パーティクルボードで9割と大半を占めているほか(第6図)、同国からの輸入額は減少している^(注16)。また、合板は中国が世界

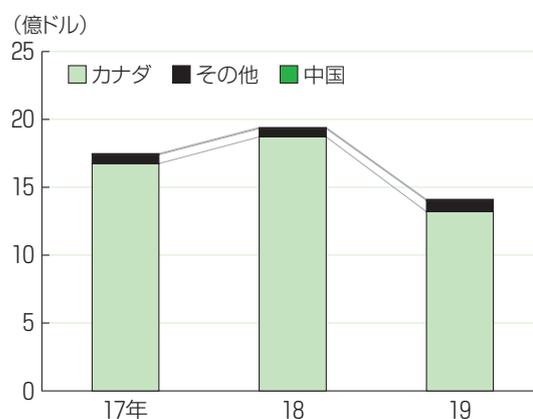
の生産量の5割を占めていることもあり、17年では米国の中国からの輸入額の割合も4割と高かった。しかしながら、19年の中国からの輸入額は、中国以外の国からの輸入額の減少に比べ大きく減少し、輸入額に占める割合は2割弱にまで低下している(第7図)。その背景には、輸入価格の上昇と追加関税の賦課があると考えられる。対中合板の輸入価格は、17年半ばから上昇傾

第5図 米国の製材輸入額の推移



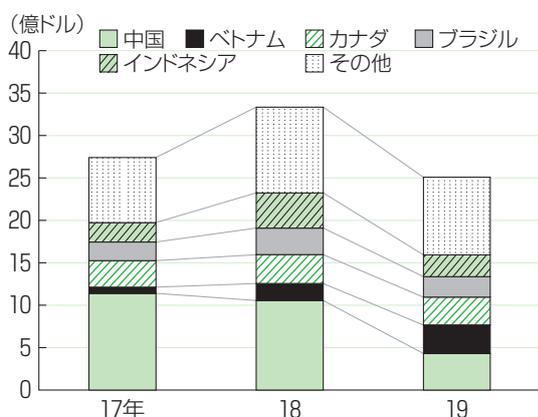
資料 第2表に同じ

第6図 米国のパーティクルボード輸入額の推移



資料 第2表に同じ

第7図 米国の合板輸入額の推移



資料 第2表に同じ

(注17) 向にあり、18年11月には1,154ドル/m²に達した。19年に入ってから、価格の上昇傾向が落ち着いたものの高止まりしたまま輸入価格に追加関税が加わっている(第8図)。一方で、中国の輸入減少分の一部をベトナムからの輸入増加が代替している。

(注15) カナダの構成比は19年47%と5割弱を占める。米国の木材輸入におけるカナダの存在は非常に大きいため、80年代から貿易紛争が続いている。

(注16) 18年にカナダからの製材輸入が減少した背景には、カナダ針葉樹材製品に対する米国の制裁関税の影響がある。米商務省は18年1月にカ

第8図 米国の中国からの合板輸入量と価格の推移



資料 第3図に同じ

(注) 19年1月は輸入量のデータが取得できないため前月値を採用。

ナダからの針葉樹材製品(主に製材や床・内壁用材)に対しアンチダンピング関税および相殺関税を発動しており、両関税を合わせた税率は10~24%になる(輸出企業別に課税額が異なるため税率に幅がある)。

(注17) 17年半ば以降、中国から世界各国に向けた合板の輸出価格は、主に北米向けで上昇している。その他地域向けについては北米と同様の価格上昇の傾向がみられず、北米向け価格の上昇要因について特定の要因を絞り込むことは難しい。考えられる要因としては、北米向け合板の材料に輸入丸太が使用されており、その価格上昇が製品価格に反映された可能性がある。

(注18) 国際熱帯木材機関(ITTO)『Biennial Review and Assessment 2017-2018』によると、中国は18年に合板工場等に対して厳しい環境規制を導入し、19年3月末までを期限により高性能で環境負荷の低い生産ラインへの移行を促している。その結果、中国の合板企業の一部は、生産コストを削減するため、また米国の追加関税措置を回避するために、ベトナムなどへ合板工場等を移転させている。

c 木製家具の輸入先は中国からベトナムへ

(注19) 19年の米国の木製家具輸入金額は、219億5千2百万ドルと世界第1位であった(世界の木製家具輸入金額668億6千4百万ドルの33%)。その伸び率は、△7.7%と18年の8.2%から大幅に低下し、マイナスに転じた(第7表)。国・地域別にみると、主要な輸入先である中国、EU、メキシコで19年に伸び率が低下した一方、ベトナムは上昇した。特に中国が△32.7%と大幅に低下した一方で、ベトナムが33.3%と大幅に上昇した。また、構成比は中国が18年の47%から19年は34%にまで低下した一方で、ベトナムが18年の18%から19年は27%にまで上昇した。

品目分類別にみると、19年はすべての品目の伸び率がマイナスとなっている。なかでも台所用、腰掛け(詰物あり)、その他の

第7表 米国の木製家具輸入増減額(地域別・主要品目別)

(単位 百万ドル、%、ポイント)

	18年				19				
	金額	構成比	伸び率	寄与度	金額	構成比	伸び率	寄与度	
木製家具輸入合計	23,787	100	8.2	8.2	21,952	100	△7.7	△7.7	
地域別 うち国・地域別	中国	11,187	47	9.5	4.4	7,530	34	△32.7	△15.4
	ベトナム	4,382	18	9.2	1.7	5,841	27	33.3	6.1
	EU	2,280	10	10.7	1.0	2,279	10	△0.0	△0.0
	メキシコ	1,320	6	10.1	0.6	1,414	6	7.1	0.4
分類別 統計品目	その他	6,314	27	7.7	2.0	5,966	27	△5.5	△1.5
	腰掛け(詰物あり)	6,114	26	10.4	2.6	5,700	26	△6.8	△1.7
	寝室用	3,639	15	2.5	0.4	3,630	17	△0.2	△0.0
	台所用	2,158	9	17.6	1.5	1,709	8	△20.8	△1.9
	事務所用	995	4	△8.5	△0.4	904	4	△9.1	△0.4
	腰掛け(詰物なし)	624	3	5.2	0.1	621	3	△0.5	△0.0

資料 第2表に同じ

(注) 統計品目分類番号は、腰掛け(詰物あり)940161、腰掛け(詰物なし)940169、事務所用940330、台所用940340、寝室用940350、その他940360。以下同じ。

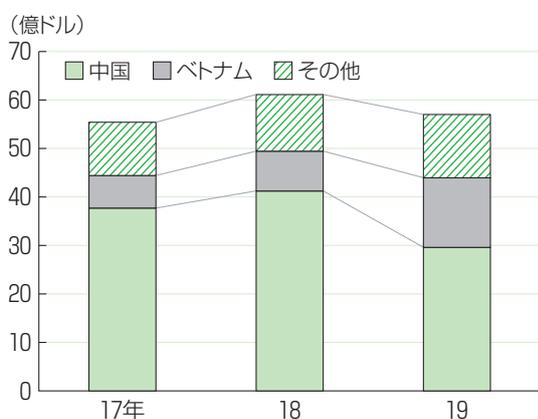
下落が輸入額の低下に寄与している。これらの品目のうち腰掛け(詰物あり)について国・地域別にみると(第9図)、17年に7割を占めていた中国からの輸入額が減少した一方で、ベトナムからの輸入額が増加した。対中腰掛け(詰物あり)の輸入価格は、17年から18年の間はおおよそ120~140ドル/脚で推移していたが、追加関税を上乗せした価格が140ドル/脚を超えた19年1月以降は輸入量が減少している(第10図)。その後、

追加関税を上乗せした価格が従来の120~140ドル/脚で推移するようにCIF価格が下落したものの、中国からの輸入量は回復していない。

なお、伸び率のマイナス幅が小さい寝室用家具は、中国の割合が以前から低いため、その影響も小さい(第11図)。

(注19) 米国の木製家具輸出は、世界の木製家具輸出入金額714億6千9百万ドルの2%と貿易額が低いこと、さらに中国向けの割合が低いことなどから本稿の分析対象から除いた。

第9図 米国の腰掛け(詰物あり)輸入額の推移



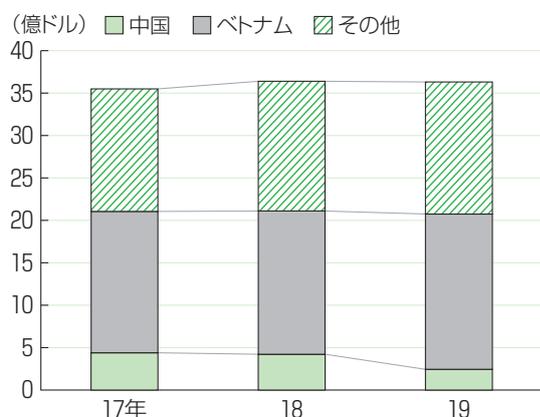
資料 第2表に同じ

第10図 米国の中国からの腰掛け(詰物あり)輸入量と価格の推移



資料 第3図に同じ

第11図 米国の寝室用輸入額の推移



資料 第2表に同じ

(3) 中国の木材貿易の動向

a 米国向けを中心に木材輸出額が減少

19年の中国の木材輸出金額は、134億1千万ドルと世界第1位であった（世界の木材輸出金額の10%）。その伸び率は、△9.9%と18年の9.1%から大幅に低下し、マイナスに転じた（第8表）。国・地域別にみると、主要な輸出先である米国、EU、ASEAN、日

本のすべてで19年に伸び率がマイナスに転じている。特に米国が△24.8%と大幅に低下した。

品目分類別にみると、主に合板がマイナスに寄与している。合板の輸出額は前掲第7図のとおり、主に米国向けが大きく落ち込んでいる。その他、合板と同様に主に建築物に使われる繊維板（MDF等）や床・内壁用材も、米国向けが落ち込んでいる。

一方、その他木製品や象嵌等の伸び率は大幅に鈍化したもののプラスを維持している。これらは、木製ハンガーや串、マッチの棒、装飾用などで主に身の回りで使われる小物である。追加関税が課されながらも米国の堅調な個人消費に支えられたと考えられるほか、アジアや欧州各国への輸出が堅調に推移しプラスとなっている。

第8表 中国の木材輸出増減額(地域別・主要品目別)

(単位 百万ドル、%、ポイント)

	18年				19			
	金額	構成比	伸び率	寄与度	金額	構成比	伸び率	寄与度
木材輸出合計	14,888	100	9.1	9.1	13,410	100	△9.9	△9.9
地域別								
米国	3,894	26	6.6	1.8	2,930	22	△24.8	△6.5
日本	1,243	8	0.5	0.0	1,219	9	△1.9	△0.2
EU	2,680	18	13.0	2.3	2,645	20	△1.3	△0.2
ASEAN	2,017	14	26.5	3.1	1,914	14	△5.1	△0.7
うち統計品目分類別								
合板	5,552	37	8.9	3.3	4,486	33	△19.2	△7.2
その他木製品	2,827	19	16.4	2.9	2,847	21	0.7	0.1
象嵌等	1,239	8	14.6	1.2	1,274	10	2.8	0.2
建具	1,161	8	△0.2	△0.0	1,119	8	△3.6	△0.3
繊維板(MDF等)	1,120	8	△2.0	△0.2	943	7	△15.8	△1.2
台所・食卓用器具材	855	6	11.2	0.6	845	6	△1.2	△0.1
単板	483	3	26.1	0.7	528	4	9.3	0.3
額縁	502	3	19.2	0.6	447	3	△11.0	△0.4
床・内壁用材	341	2	△20.0	△0.6	244	2	△28.4	△0.7
木炭	133	1	27.9	0.2	167	1	25.6	0.2

資料 第3図に同じ

(注) 1 台所・食卓用器具材、額縁は追加関税賦課対象外。
2 統計品目分類番号は、額縁4414、木炭4402。以下同じ。

b 米国などからの丸太と製材輸入額が減少

19年の中国の木材輸入金額は、219億7千6百万ドルと世界第1位であった（世界の木材輸入金額の16%）。その伸び率は、△11.8%と18年の6.4%から大幅に低下し、マイナスに転じた（第9表）。国・地域別にみると、主要な輸入先であるオセアニア、ロシア、米国で19年に伸び率がマイナスに転じたほか、ASEANは2年連続で伸び率がマイナスとなっている。特に米国が△48.7%と大幅に低下した。

品目分類別にみると、構成比が高く、下落幅の大きい丸太と製材がマイナスに寄与している。これらを国・地域別にみると、丸太の輸入構成比はオセアニアが4割を占め主要な輸入先であるが（第12図）、同地域の中では特にニュージーランドからの輸入額が減少している。同国からは繊維板（MDF等）や木製家具などの材料となる針葉樹の

ラジアータパインを主に輸入しているが、中国から米国向けの繊維板（MDF等）や木製家具の輸出額が大きく減少したことなどが、同国からの輸入額にも影響を及ぼしたと考えられる。

また、丸太と製材（第13図）は、米国からの輸入額が減少している。これは前述のとおり追加関税を上乗せした価格が高止まりしたことなどが影響したと考えられる。なお、製材はASEANからの輸入額も減少しており、特にタイから建具や家具などに使用される製材の輸入額が減少している。

c 米国向けなどの木製家具輸出額が減少
(注20)

19年の中国の木製家具輸出金額は、199億2千1百万ドルと世界第1位であった（世界の木製家具輸出金額714億6千9百万ドルの28%）。その伸び率は、△13.3%と18年の1.1%から低下し、マイナスに転じた（第10表）。国・地域別にみると、主要な輸出先である

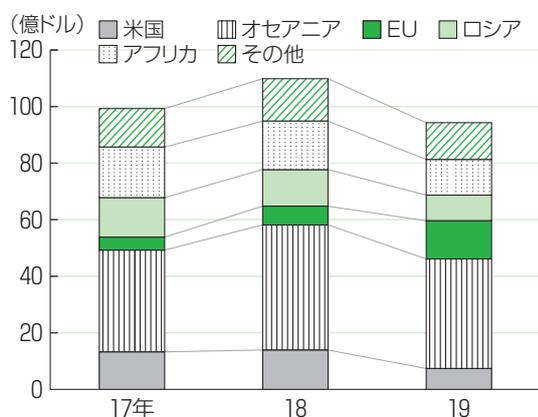
第9表 中国の木材輸入増減額(地域別・主要品目別)

(単位 百万ドル、%、ポイント)

	18年				19年				
	金額	構成比	伸び率	寄与度	金額	構成比	伸び率	寄与度	
木材輸入合計	24,914	100	6.4	6.4	21,976	100	△11.8	△11.8	
地域別	米国	3,081	12	0.4	0.1	1,580	7	△48.7	△6.0
	オセアニア	5,436	22	21.2	4.1	4,826	22	△11.2	△2.4
	ロシア	4,692	19	4.9	0.9	4,279	19	△8.8	△1.7
	ASEAN	4,001	16	△3.9	△0.7	3,481	16	△13.0	△2.1
うち統計品目分類別	丸太	10,983	44	10.6	4.5	9,435	43	△14.1	△6.2
	製材	10,130	41	0.6	0.3	8,591	39	△15.2	△6.2
	チップ等	2,262	9	18.6	1.5	2,397	11	6.0	0.5
	その他木製品	470	2	△17.1	△0.4	448	2	△4.7	△0.1
	パーティクルボード	243	1	0.8	0.0	234	1	△3.7	△0.0
	単板	192	1	22.3	0.1	228	1	18.8	0.1
	繊維板(MDF等)	141	1	4.4	0.0	131	1	△7.1	△0.0
	合板	156	1	3.3	0.0	127	1	△18.6	△0.1
	建具	102	0	8.5	0.0	104	0	2.0	0.0
	木炭	88	0	76.0	0.2	99	0	12.5	0.0

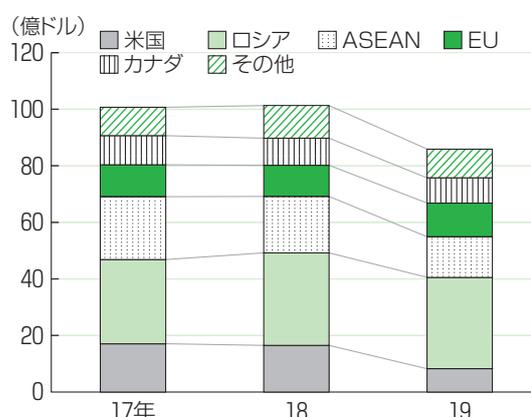
資料 第3図に同じ
(注) 統計品目分類番号は、チップ等4401。

第12図 中国の丸太輸入額の推移



資料 第3図に同じ

第13図 中国の製材輸入額の推移



資料 第3図に同じ

米国で19年に伸び率がマイナスに転じたほか、ASEANは2年連続でのマイナスとなった。特に米国への輸出額の伸び率が△30.2%と大幅に低下しており、同国の構成比は18年の44%から19年は35%にまで縮小している。なお、EUのみ輸出額の伸び率が堅調に推移している。

品目分類別にみると、19年のすべての品目で伸び率がマイナスとなっている。追加関税措置で米国の木製家具輸入額が減少した影響が大きい。特に腰掛け（詰物あり）、

その他、台所用などが輸出額低下に寄与している。木製家具の輸出額の減少は、その材料となる丸太や製材の輸入額の減少につながっていると考えられる。

(注20) 中国の木製家具輸入は、世界の木製家具輸入金額668億6千5百万ドルの2%と貿易額が低いこと、さらに米国からの割合が低いことなどから本稿の分析対象から除いた。

(4) 小括

—減少した米中の木材貿易額—

本節でみてきたとおり、米国では、木材・

第10表 中国の木製家具輸出増減額(地域別・主要品目別)

(単位 百万ドル、%、ポイント)

	18年				19				
	金額	構成比	伸び率	寄与度	金額	構成比	伸び率	寄与度	
木製家具輸出合計	22,964	100	1.1	1.1	19,921	100	△13.3	△13.3	
地域別	米国	10,104	44	8.5	3.5	7,052	35	△30.2	△13.3
	EU	3,661	16	3.0	0.5	3,805	19	3.9	0.6
	日本	1,266	6	3.0	0.2	1,286	6	1.6	0.1
	ASEAN	1,249	5	△25.2	△1.8	1,114	6	△10.8	△0.6
統計品目別	腰掛け(詰物あり)	8,784	38	7.2	2.6	7,718	39	△12.1	△4.6
	その他	7,283	32	5.4	1.6	6,593	33	△9.5	△3.0
	寝室用	3,122	14	△23.3	△4.2	2,696	14	△13.6	△1.9
	台所用	1,906	8	19.5	1.4	1,372	7	△28.0	△2.3
	事務所用	1,201	5	2.6	0.1	972	5	△19.1	△1.0
腰掛け(詰物なし)	669	3	△12.4	△0.4	571	3	△14.6	△0.4	

資料 第3図に同じ

木製家具の輸出入額の伸び率が、18年のプラスから19年にマイナスに転じた。輸出先別の木材輸出額は、中国、カナダ、EU、メキシコの主要な国・地域のすべてで19年に伸び率が低下した。中国向けは追加関税を上乗せした価格が高止まりしたことなどから、丸太と製材の輸出額が大きく減少した。輸入先別の木材輸入額は、カナダ、中国、EU、ASEANの主要な国・地域のすべてで19年に伸び率が低下した。特に中国からの合板の輸入額が減少している。上昇傾向にあった輸入価格に追加関税が加わったことなどが影響した。一方で、合板はベトナムからの輸入額が増加した。木製家具輸入額は、中国、EU、メキシコで19年に伸び率が低下した。中国の伸び率が大幅に低下した一方で、ベトナムの伸び率が大幅に上昇した。

中国では、木材・木製家具の輸出入額の伸び率が、18年のプラスから19年にマイナスに転じた。輸出先別の木材輸出額は、米国、EU、ASEAN、日本の主要な国・地域のすべてで19年に伸び率がマイナスに転じた。特に米国向けの合板の輸出額が減少している。輸入先別の木材輸入額は、オセアニア、ロシア、ASEAN、米国の主要な国・地域のすべてで19年に伸び率がマイナスとなった。特に米国からの丸太と製材の輸入額が減少している。また、米中貿易摩擦の間接的な影響でオセアニア（主にニュージーランド）の丸太やASEAN（主にタイ）の製材の輸入額も減少している。輸出先別の木製家具輸出額は、米国、日本、ASEAN向けで19年に伸び率が低下した。また、木製

家具の輸出額の減少は、その材料となる丸太や製材の輸入額の減少にもつながっていると考えられる。

以上をまとめると、米中の木材貿易額の伸び率は19年に大幅に低下しマイナスに転じた。米中間の木材貿易は、米国の対中輸出（中国の対米輸入）で丸太と製材の輸出額（中国は輸入額）が、米国の対中輸入（中国の対米輸出）で合板と木製家具の輸入額（中国は輸出額）が減少した。また、間接的な影響として、中国でオセアニアやASEANからの丸太と製材の輸入額が減少した。一方、米国でベトナムからの合板や木製家具の輸入額が増加した。

追加関税措置によって、世界の木材貿易においても米中間貿易に限らず、米中ともに主要先国・地域との貿易額の伸び率が軒並み鈍化していることがわかった。

(5) 住宅市場の減速が木材貿易に影響

追加関税措置だけでなく、米中の住宅市場の減速傾向も木材貿易の縮小要因となっている可能性が高い。

米国の新築・中古の住宅販売件数の伸び率は（第14図）、住宅ローン金利の動向に沿う形で推移しており、その販売は主に金利動向に左右される。伸び率は、17年半ばまで新築は15%前後、中古は5%弱であったが、住宅ローン金利の上昇とともに伸び率の低下傾向が続いた。その結果、新築は18年後半から19年半ばにかけて、中古は18年前半から19年後半にかけて伸び率がマイナスに転じた。なお、19年7月以降は、米中

第14図 米国の住宅販売件数の伸び率(前年同月比、12か月後方移動平均)



資料 全米不動産協会、米商務省センサス局、トムソン・ロイター、Freddie Mac

貿易摩擦に伴う経済減速懸念から、FRB(米連邦準備制度理事会)による3回の利下げ等を背景とした金利の低下で、住宅販売が上向いている。

一方、中国の住宅用不動産販売面積の伸び率の推移をみると(第15図)、政府による不動産市場安定化策によって、17年初頭に20%台であった伸び率は低下を続け、18年はおおむね3%前後で、19年は0%前後で推移している。

このように住宅販売は、米国では主に金

第15図 中国の住宅用不動産販売面積の伸び率(前年同月比)



資料 中国国家統計局
(注) 各年1月は前月値。

利上昇により、中国では主に政策方針によっていずれも減速傾向にあった。米中両国における19年の住宅販売の伸び率は、米国は金融緩和によって年後半に持ち直したとはいえ、前年比 $\Delta 3 \sim \Delta 5 \%$ 、中国は $\Delta 3 \%$ ほどで縮小傾向にあった。その結果、木材貿易額を抑制する方向に作用したと考えられる。すなわち、木材貿易額の伸び率の低下は、追加関税措置以外にも住宅市場の減速傾向が背景にあることを踏まえておく必要がある。

3 貿易摩擦が他国に及ぼす影響

米中貿易摩擦の間接的な影響として、米国でベトナムからの合板や木製家具の輸入額が増加したほか、中国でオセアニア(主にニュージーランド)の丸太やASEAN(主にタイ)の製材の輸入額が減少した。以下では、米中貿易摩擦が木材貿易に与える間接的な影響について、ベトナムのほか日本を事例にその影響を確認する。

(1) 事例1

—ベトナムの米国向け輸出が増加—

追加関税措置により、米国では中国からの合板と木製家具の輸入額が減少した一方で、ベトナムからの輸入額が増加した。その結果、ベトナムは米国のトップサプライヤーである中国の地位に迫りつつある。

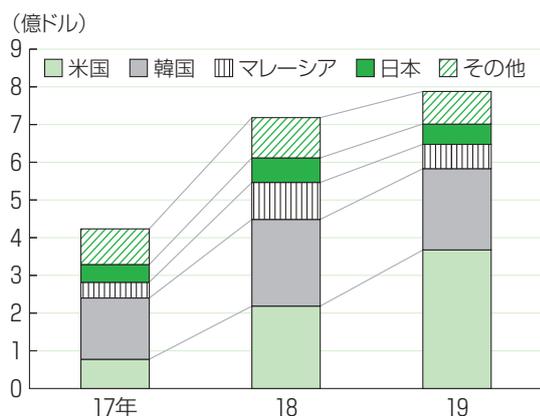
ベトナムの木材産業の発展は著しく、その輸出額は06年の19億ドルから17年の76億ドルへと11年で4倍弱拡大している。同国

政府は、この輸出額を25年までに200億ドル(2.6倍)にする国家目標を掲げており、米中貿易摩擦は目標達成の追い風となっている。同国の輸出額の増加は、産業基盤の整備が進みつつあったことも背景にある。

米国向け合板と木製家具の輸出額の推移をみると、合板は、17年の7,741万ドルから19年の3億6,716万ドルへと2年で4.7倍に(第16図)、木製家具は、17年の42億1千3百万ドルから61億6千4百万ドルへと2年で1.5倍に増加している(第17図)。一方で、輸出の増加はその材料となる木材の輸入を(注21)増加させている。

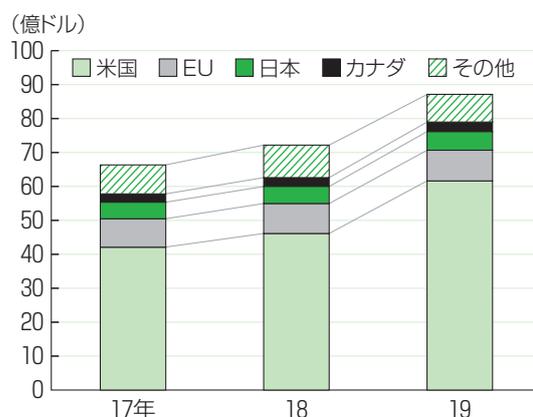
合板は、中国からの輸入額の伸び率が18年に26.6%と大幅に上昇した(第11表)。ただし、18年に中国から輸入した合板は、その一部がベトナム製と偽って米国に輸出された可能性が指摘されている。(注22) これを受けて同国政府は19年に入り米国に輸出される

第16図 ベトナムの合板輸出額の推移



資料 第3図に同じ
 (注) 20年5月末現在は、ベトナムの19年の輸出額(FOB価格)が取得できないためベトナムから輸入した国の輸入額(CIF価格)を採用した。輸入額は輸出額に対し運賃や保険料が含まれているため、輸出額は輸入額よりも低い価格となる。また、ベトナムから輸入した国のうち19年の値が現在までに公表されていない国については未計上である。

第17図 ベトナムの木製家具輸出額の推移



資料 第3図に同じ
 (注) 1 第16図に同じ。
 2 木製家具は、統計品目分類のうち940161(腰掛け(話物あり))、940169(腰掛け(話物なし))、940330(事務所用)、940340(台所用)、940350(寝室用)、940360(その他)とした。

中国産品への罰則を強化したため、19年の伸び率は3.5%の上昇にとどまった。なお、合板の材料となる単板は、中国からの輸入額の伸び率が、18年に64.5%、19年に50.8%と連続して大幅に上昇している。

合板および木製家具の米国への輸出額の増加に伴い、その材料となる丸太やパーティクルボードの米国からの輸入額の伸び率が、2年連続で大幅に上昇している。

すなわち、米国向け合板と木製家具の輸出増加に対して、それらの材料は、明らかに中国と米国からの輸入によって賄われているのである。

(注21) ベトナムの木材生産量は18年2,750万m³。うち人工林からの生産量が18年1,850万m³(ベトナム農業農村開発省森林総局)。人工林面積は拡大傾向にあるものの、生産品目はアカシア小径木が主でチップに加工されるため、木材製品の生産拡大には外材輸入が欠かせない。

(注22) ベトナム政府の中国産品への罰則強化については以下の記事を参照。

「Chinese Exporters Dodge Tariffs With Fake Made-in-Vietnam Labels」(ブルームバ

第11表 ベトナムの木材輸入増減額(地域別・米中主要品目別)

(単位 百万ドル、%、ポイント)

	18年				19				
	金額	構成比	伸び率	寄与度	金額	構成比	伸び率	寄与度	
木材輸入合計	1,500	100	5.3	5.3	1,552	100	3.5	3.5	
地域別 うち国	米国	312	21	18.2	3.4	352	23	12.8	2.7
	品目別								
	うち製材	229	73	14.9	2.1	230	65	0.4	0.1
	丸太	68	22	17.4	0.7	93	26	36.8	1.7
	パーティクルボード	7	2	56.361.5	0.5	18	5	141.9	0.7
	中国	424	28	21.8	5.3	537	35	26.7	7.5
	品目別								
	うち合板	224	53	26.6	3.3	232	43	3.5	0.5
	単板	102	24	64.5	2.8	154	29	50.8	3.4
	その他木製品	30	7	23.5	0.4	52	10	77.3	1.5
EU	196	13	8.9	1.1	207	13	5.6	0.7	
ASEAN	195	13	△3.0	△0.4	159	10	△18.5	△2.4	

資料 第3図に同じ

(注) 1 20年5月末現在は、ベトナムの19年の輸入額(CIF価格)が取得できないためベトナムへ輸出した国の輸出額(FOB価格)を採用した。輸出額は輸入額に対し運賃や保険料が含まれていないため、輸入額は輸出額よりも高い価格となる。また、ベトナムに木材を輸出した国のうち19年の値が現在までに公表されていない国について未計上である。

2 品目別の構成比は米国、中国それぞれの総金額を100%とした。

—グ2019年6月10日付)

<https://www.bloomberg.com/news/articles/2019-06-10/vietnam-cracks-down-on-chinese-made-goods-being-shipped-to-u-s>

「Ngành chế biến gỗ Việt Nam trong thương chiến Mỹ - Trung」(ベトナム農業新聞2019年8月29日付)

<https://nongnghiep.vn/nganh-che-bien-go-viet-nam-trong-thuong-chien-my--trung-d244611.html>

(2) 事例 2

—日本の中国向け丸太輸出が減速—

19年の日本の木材輸出金額は、346億円

(3億1千8百万ドル)と世界第54位(世界の木材輸出金額1,360億ドルの0.2%)であり、世界の主要輸出国と比較すると非常に小さい。^(注23) その伸び率は、△1.4%と18年の7.4%から低下し、マイナスに転じた(第12表)。国・地域別にみると、フィリピンや韓国向けの輸出額がマイナスに寄与している。フィリピン向けは日本の住宅建設の減少などの影響を受けて合板輸出が減少した。^(注24) また、韓国向けは同国の住宅建設の減少などの影響を受けて丸太輸出が減少した。

第12表 日本の木材輸出増減額(地域別・主要品目別)

(単位 百万円、%、ポイント)

	18年				19				
	金額	構成比	伸び率	寄与度	金額	構成比	伸び率	寄与度	
木材輸出合計	35,062	100	7.4	7.4	34,570	100	△1.4	△1.4	
地域別 うち国	中国	15,862	45	9.2	4.1	15,928	46	0.4	0.2
	フィリピン	7,944	23	7.5	1.7	7,435	22	△6.4	△1.5
	韓国	3,233	9	△12.6	△1.4	2,917	8	△9.8	△0.9
	米国	2,503	7	32.2	1.9	2,700	8	7.9	0.6
	品目別								
丸太	14,800	42	8.2	3.4	14,714	43	△0.6	△0.2	
合板	7,168	20	13.6	2.6	6,466	19	△9.8	△2.0	
製材	6,046	17	12.3	2.0	5,966	17	△1.3	△0.2	

資料 財務省「貿易統計」

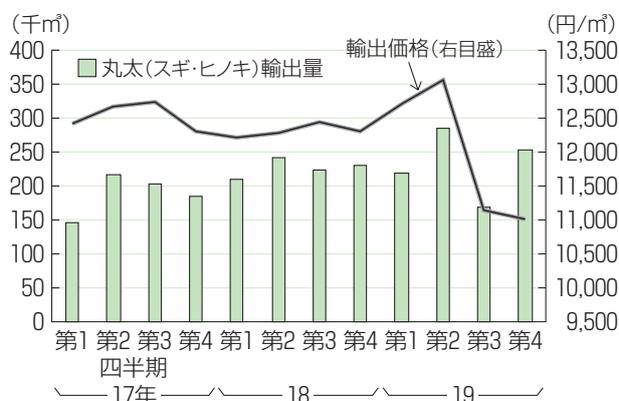
一方で、米中貿易摩擦により米中両国は19年に木材輸入額が減少しているものの、日本からの米中両国に対する輸出額の伸び率はプラスを維持した。

19年の日本の木材輸出額における米国の構成比は8%と低いものの近年拡大傾向にある。日本から米国向けの輸出品目としては、住宅のフェンスに主に使用される製材が輸出額の40%を占める。フェンス用の製材は、同国内の既存住宅のリフォーム用として利用されており、住宅ストックの増加とともに市場の拡大が続いている。そのため新設住宅の建築に用いられる木材とは違って、比較的住宅販売の減速の影響を受けなかったと考えられる。

中国の構成比は19年で46%と輸出先のなかでも極めて重要な位置を占める。うち75%が丸太であり、輸出額の伸び率は、19年に3.1%とプラスである。19年5月に25%へと追加関税が引き上げられて以降、丸太価格が急落し第3四半期の輸出量は減少したものの、第4四半期には輸出量は回復した(第18図)。中国への主要輸出国と比べて輸出額の伸び率がプラスとなった理由としては、そもそも日本の丸太輸出額は、中国からみるとごくわずかであるため中国国内需要の減少による影響を大きく受けなかったこと、また、日本の丸太を使った加工貿易では米国向けのフェンス用の製材を取り扱っていることなどが考えられる。

ただし、輸出向け丸太の国内価格は(FOB価格から船積費などを除いた値)、木質バイオマス発電の燃料材向け丸太価格と同水準に

第18図 日本の中国向け丸太(スギ・ヒノキ)輸出量と価格の推移



資料 第12表に同じ

まで下落している。価格低下が更に進めば価格が生産コストを下回る、あるいは輸出处から燃料材向けに振り替える可能性が高まることなどから、日本からの輸出が難しくなる可能性がある。

(注23) 日本の木材輸出額は、林業生産活動によって生み出される国内生産額の14%(18年)と少ない。ただし、主な木材の需要先である国内住宅市場の先行きは縮小が見込まれている。森林資源の活用に向けて木材の生産量を維持・拡大させていくためには、輸出などの新たな市場拡大に向けた取組みが重要である(安藤(2015, 2018))。

(注24) フィリピン向け輸出額の8割は合板である。これは日本の住宅メーカーが現地の関連工場に輸出し、住宅部材に加工して日本に再輸出しているためである。同国向け合板輸出額の増減は、住宅着工の変動を受けた個別企業の経営状況による。

おわりに

(1) 米中の木材貿易額は縮小

米中貿易摩擦に伴う追加関税措置によって、米中間貿易に限らず、米中ともに主要先国・地域との貿易額の伸び率が軒並み鈍化した。木材貿易も同様の傾向が確認され、

米中の木材貿易額の伸び率は19年に大幅に低下しマイナスに転じた。

19年の米中間の木材の貿易額の伸び率をみると、米国の対中輸出は△45.1%（対する中国の対米輸入は△48.7%）で、主に丸太と製材が低下した。一方、中国の対米輸出は△24.8%（米国の対中輸入は△30.0%）で、主に合板が低下した。また、木製家具の貿易額の伸び率をみると、中国の対米輸出は△30.2%（米国の対中輸入は△32.7%）で、主に腰掛け（詰物あり）が低下した。これら米中間の貿易額の伸び率の低下は、主に追加関税による価格上昇が要因であると考えられる。木材貿易額の縮小は、米中間のみならずその他の国・地域との貿易にまで影響を与えており、主要な取引相手国と地域で貿易額の伸び率が19年に低下した。

これまで中国の木材輸出は米国に重点が置かれていた。今後は米中関係や世界経済の悪化などにより、中国の木材業界は米国以外の市場に手を伸ばすのではないだろうか。中国は、陸路と海路で中国と各大陸を結ぶ「一带一路」政策により、道路や鉄道、港湾の整備を進めており、欧州やアフリカ、東南アジア市場などへのアクセスが改善され始めている。先行きは、国内生産だけでなくベトナムなど海外へ生産拠点を求めて、中国企業による木材サプライチェーンのグローバル化が進むと考えられる。

(2) 生産地の移管や価格の低下を誘発

米中貿易摩擦が他国に及ぼす影響をベトナムと日本を事例に確認した。ベトナムは、

中国の代替生産地として米国への輸出を増やしている。米中間の貿易品目のうち合板と木製家具の一部については、追加関税を回避するために中国資本の木材業者が成長を続けるベトナムへと生産地の移管を進めた。

日本は、19年に中国向け丸太価格の低下により、輸出額の伸び率が低下した。日本の丸太は、輸出価格の低下によって、輸出处から国内のその他用途へと供給先が変化しつつある。なお、日本と同様にニュージーランドなどその他諸国の中国向け丸太価格も、追加関税措置以降に低下傾向にある。

中国から米国への合板や木製家具などの輸出については、追加関税を上乗せした価格の上昇を抑えるために、輸出価格が低下している（または輸出価格の上昇が抑制されている）。つまり、課税賦課の負担に対する中国の輸出企業による価格の引下げは、中国の輸出企業だけでなく丸太などの材料を中国に輸出する国に対してもその負担が転嫁されたと考えられる。

以上より、追加の関税賦課は木材貿易に次のような影響を与えた。直接的な影響としては、米中両国ともに追加関税で生じる価格上昇の影響で貿易額が縮小した。間接的な影響としては、価格競争力低下で中国から米国向けの輸出が難しくなったため、中国での生産をベトナムに移管する動きがみられた。その結果、米中両国ともにベトナムとの間で木材貿易が拡大している。また、課税賦課を抑えるために中国から米国

向けの輸出価格が低下した影響から、その材料を中国に供給する国の輸出価格が低下しており、悪影響が第三国にまで及んでいる。

(3) 新型コロナウイルスが更なる打撃に

米中貿易摩擦は、20年1月の第1段階の貿易合意を受けて米中関係の改善が期待された。しかし、その後は新型コロナウイルスのまん延や国家安全法制定による香港を巡る問題から両国の関係が悪化しており、早期の関係改善は見込み難い状況にある。

本稿では、米中貿易摩擦が木材貿易に及ぼす影響に絞って論じてきたが、20年に入って新型コロナウイルスのまん延が世界を

震かんさせており、世界中で経済活動の停止を余儀なくされている。これに伴い木材貿易も急激に縮小している。中国国内では感染は沈静化し経済活動が再開されたものの、世界経済の回復に向けた見通しは依然不透明な状態であり、世界規模で長期的な木材需要の低迷が続く可能性が懸念される。

<参考文献>

- ・安藤範親 (2015) 「国産丸太輸出の伸長要因と競争力」『農林金融』6月号
- ・安藤範親 (2018) 「非木造建築物の市場規模から木材の潜在市場を探る」『農林金融』9月号
- ・Guatieri,S. (2019) "Tariff-ic" BMO Capital Markets Special Report, May 10.

(あんど う のりちか)

